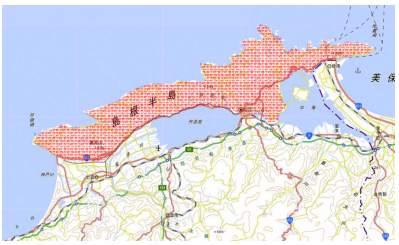
生物・生態サイトカード

通しNo.		A-1	更新日	2025/3/19
サイト名		島根半島と植物（しまねはんとうとしょくぶつ）		
基本情報	区分	□動物　　☑植物		
	生息地	島根県出雲市、松江市（島根半島）		
	分類			
	管理団体／保護団体／モニタリング			
	留意点	ハマナデシコ：しまねレッドデータブック（絶滅危惧Ⅱ類）等		
サイトの解説	生物・生態	島根半島は、東西約65kmにおよぶ山塊で、南は宍道湖・中海、出雲平野に、北は日本海に面している。島根半島は大きく3つの山塊からなり、最も高い山はいずれも標高が536mの鼻高山と三坂山である。島根県内では、概ね600～700mより標高の低い地域は、常緑広葉樹を主体とする照葉樹林帯となる。さらに対馬海流の影響もあり、比較的温暖な地域となっている。そのため森林伐採などの影響が少ない場所では、スダジイやタブノキ、ヤブツバキやシロダモなどの常緑広葉樹が、二次林ではコナラ、イヌシデ、ウリハダカエデなどが森林を形成している。 この他、本州南岸を分布の中心とする暖地性の種群のうち、島根半島にまで分布を延ばしている植物がある。ヤマモモ、マテバシイ、ハマビワなどの樹木、ハスノハカズラやフウトウカズラなどのツル植物、ハマナデシコ、ムサシアブミ、ソナレムグラなどの草本類があげられる。中でもヒトモトススキ、テツホシダなどは、島根半島の生育地が隠岐とともに国内の分布北限に近く、島根県版レッドデータブックにも掲載されるなど、希少な種といえる。 数は少ないものの、より冷涼な地域が分布の中心である植物として、クロベ、ブナ、イヌブナ、カツラなどの生育が知られている。約2万年前の最終氷期には、島根半島一帯の年平均気温は現在より7～8℃低く、ブナを伴う冷温帯域の森林が広がっていたとされる。その後温暖化が進み、暖温帯の植物群へと移り変わったが、鼻高山のクロベなど山地の一部に冷温帯域の植物が残存している。		
	地形・地質、歴史・文化等	日本海沿岸域の気候に大きな影響を与えている対馬暖流は、対馬海峡を通過した後の主流の動きとして蛇行説と分枝説があるが、海外の漂着ゴミの分布からも分かるように隠岐島や島根半島域では対馬暖流の影響は顕著である。日本海側の冬期の降水量や冬期季節風の強さは、暖流の影響を強く受けている海域と極前線の北の海域の貯熱量の多寡が大きな影響を及ぼしているとされる。		
写真・図等		 ヤマモモ（出雲市大社町宇竜）　 テツホシダ（出雲市大社町日御碕）		
参考文献		大西郁夫（1977）出雲海岸平野下第四紀堆積物の花粉分析．地質学雑誌 83: 603-616. 島根県環境生活部自然環境課（2013）改訂しまねレッドデータブック2013植物編～島根県の絶滅のおそれのある野生植物～．島根県環境生活部自然環境課．島根． 井上雅仁（2019）松江市の植物．松江市史 資料編1自然環境（松江市史編集委員会）：595-634．松江市，島根．		